MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

2019. 12. 14　発行元

第 14 号　伊藤　剛

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

赤川次郎 ベスト表

今度は赤川次郎。西村京太郎と並ぶ多作家。出た当時は、会話文が多く、軽快でユーモア溢れる文体が多くのファンを集め、一時代を築いた。映画、音楽と一体化した大ブームだった。現在も活躍を続けていることが凄い。

全著作はほぼ600冊超！

今から思えば、現在のライト系ノベルの根っこに結びついていたのかもしれない。若者の読者を掘り起こした功績は大きい。

現在までの全著作は、今年で軽く６００冊を越えると思う。実のところ、私は３００冊を越えたところで読むのをストップしてしまった。最近作はほとんど読んでいない。

右に『ベスト表』を挙げたが、ほぼ発売順に本を並べたような順番であって、ランキングを作るのに苦労する。作品の出来にそれほどの差がないのだ。同じような物語を創り出す名手と言ってもよいかもしれない。ただ、間違いなく、初期の作品ほど、丁寧な構想で、中身のレベルも高い。

「三毛猫ホームズ」を中心に

たくさんのシリーズがある中で、『三毛猫ホームズシリーズ』が一番の中心柱になっていると思う。安心して読める作品群である。余裕ができたら、また『三毛猫シリーズ』の未読の本を読んでもいいなと思っている。

「幽霊列車」のシリーズも

作家としてのスタート位置に近いのが『幽霊列車シリーズ』。最初は謎解き要素のレベルも高かった。１巻めの『幽霊列車』を最初に読んだ時は感動した。振り返れば、若かったなぁと思う。

『三姉妹探偵団シリーズ』も、私の好きなストーリーで、毎回楽しみにして待っていた。逆に『若草色のポシェット』から始まる杉原爽香シリーズは、私には苦手な傾向のシリーズだ。

世間的に言うと、爆発的に知られるようになったのは『セーラー服と機関銃』。カドカワ映画で大々的に取り上げたからだ。私が持っている本は、主婦と生活社から出された版のもの。ブームに成りかける前の本だ。(う～ん。表紙のイラストが今一つ……)ネットの古書価格で調べてみると２５００円くらいの値がついていることもあるようだ。その後、映画の公開に合わせて、角川ノベルス版が書店の店頭に山積みになった記憶がある。

カドカワ映画と共に……

『セーラー服』は、薬師丸ひろ子が主演だが、その後も角川映画との結びつきは続いた。私の手元には、原田知世主演の『早春物語』も残っている。映画が前提の書き下ろしミステリである。このあたりまでは本が出るとすぐに買っていたのだが……。

赤川次郎は、西村京太郎と共に「ノベルスの時代」を築いた看板作家で、カッパノベルス、講談社ノベルス、角川ノベルス……、どこの出版社でも引っ張りだこだった。本当に懐かしい作家である。

赤川次郎の最新作……『三毛猫ホームズの裁きの日』カッパノベルス　『三姉妹・恋と罪の峡谷』講談社ノベルス　『黄緑のネームプレート』光文社文庫　『花嫁をガードせよ』ジョイノベルス　『ヴィーナスは天使にあらず』KADOKAWA　等

《赤川次郎作品のベスト表》

１．三毛猫ホームズの推理
２．幽霊列車（短）
３．三毛猫ホームズの追跡
４．三毛猫ホームズの狂死曲
５．幽霊候補生（短）
６．三毛猫ホームズの恐怖館
７．三毛猫ホームズの駆け落ち
８．ミステリ博物館（短）
９．三毛猫ホームズの怪談
１０．三毛猫ホームズの騎士道
１１．三毛猫ホームズの運動会（短）
１２．女社長に乾杯
１３．三姉妹探偵団
１４．幽霊愛好会（短）
１５．ひまつぶしの殺人
１６．死者は空中を歩く
１７．幽霊心理学（短）
１８．自殺行き往復キップ
１９．晴れ、ときどき殺人
２０．三毛猫ホームズのびっくり箱（短）
２１．結婚案内ミステリー風（短）
２２．霧の夜にはご用心
２３．三毛猫ホームズの登山列車
２４．盗みは人のためならず（短）
２５．三毛猫ホームズの幽霊クラブ
２６．裏口は開いていますか
２７．悪妻に捧げるレクイエム
２８．幽霊湖畔（短）
２９．沈める鐘
３０．三毛猫ホームズの舞踏会
３１．窓際族に花束を
３２．冬の旅人（短）
３３．死体置き場で夕食を
３４．忙しい花嫁
３５．田園殺人事件
３６．血とバラ（短）
３７．毒　ポイズン
３８．いつか誰かが殺される
３９．華麗なる探偵たち（短）
４０．セーラー服と機関銃

以下、延々と続く。なにしろ６００冊近くあるのだから。４０位までででも１割にもならない。ほとんど同じ評価の作品がずらりと並んでいる。ノベルスが多かったが、四六判の単行本もどんどん出ていた時期もある。